

令和6年度 法人事業計画

はじめに

法人は、多くの方々からのご支援を頂いて設立から20年を迎えました。登記日の2月3日には記念式典を開催してブラッシュアップした理念をお披露目し、会場でメンバーも交えてシンポジウムを開催して理解を深め、共有の場としました。今年度は新理念を現場の実践に落とし込み、試行錯誤の中でメンバーと手を携えて事業を進めていきたいと考えます。

翻って、世界や日本発の情報の波に晒されながら日常生活を重ねる日々、鬱々とした感情の中で立ち竦んでおられる方も少なくないでしょう。「善」や「正義」は立場を入れ替えて対立します、それを乗り越える概念は「公正」でしょうか。

障害者福祉に目を向けた時、税込増を目的とした「成果主義」や、事業所の淘汰を狙った「大型化・効率化」を求める国の動きに歯止めは掛からず、一法人の力だけでは立ち行かない現実に圧倒されています。他法人や他団体とどう繋がっていくのかも課題となります。福祉とは本来、思いと知識と技術に裏打ちされた手づくりの丁寧な実践の繰り返しであり、今回の報酬改定の内容とは相容れない活動です。小規模ではあっても目的の異なる法人内の多様な事業を活かし、メンバーとスタッフの流動性を高めたいと考えます。

基本的な考え方

咲くら工房で福祉体験学習をされた高校生から素敵なプレゼントを頂きました。感想作文の一部をご紹介します。法人が大切にしている『多様性の尊重』を、若々しい感性で鋭く実感して表現されています。

※お世話になった施設は精神障害を抱える方が多く通所し、お弁当作りや軽作業を行う作業所だった。精神障害と聞くとニュースなどから少し怖いイメージもあったため、初日は施設へ向かうまで不安と緊張でいっぱいだった。利用者さんから作業の手順を一から丁寧に教えていただきながら仕事を行った。どの利用者さんもとても優しく、「困ったことがあったらいつでも聞いてくださいね」などと私に声をかけてくださった。作業部屋は「ありがとうございます」という言葉が飛び交う、あたたかい雰囲気だった。また、知的障害を抱える方も同じ部屋にいらっしやう。人それぞれの個性を認め、尊重すること。当たり前な行動であるが、その大切さを改めて実感した。障害を持った人の中で絵や音楽に長けている人がいると聞いたことはあったが、実際にその才能を目の当たりにしたのは初めてだった。こんな才能を持った方がたくさんいらっしやうことに驚き、もっとこんな人がいるということを知って欲しいとも思った。できないことがあれば、お互いに助け合い、困っている人がいたら自ら進んで助けに行く。利用者さんが当たり前のように行っていた姿が三日間で最も印象に残った。日常生活を過ごしていると、ついつい自分のことに精一杯になり、周りが見えなくなってしまう。だからこそ、利用者さんが常に周りに気を配り、優しさ溢れる行動をされている姿に感動し、世の中の多くの人に障害を持つ方の様々な面について知って欲しいと思った。※

今後激変する環境を生き抜いていくために、ここを土台に何を加えていくのか。新しい力の台頭による運営面の変化が求められます。コロナ禍でも開所し続けた力を自信に変えて進みます。まずは、シンプルで小さな『地域とのつながり』の中で貢献をして、福祉活動へのファンを増やさなければなりません。

事業計画

1. 『職員の成長』に更に取り組みます。人が文化として育て守ってきた「福祉」を、次代へ手渡せる「福祉人」の集団をつくります。
 - ・外部研修参加補助制度の利用者、派遣者を増やします。同時に、定期的な内部研修を実施して支援力・連携能力の向上に努めます。
 - ・管理職チーム4名のパワーアップと、今後の法人運営に関する役割分担の構築に努めます。
 - ・主任5名を中心に各自の持ち味に応じたレベルアップに取り組み、次代の管理職育成に努めます。
 - ・本部事務体制の強化を実現します。
2. 安全でメンバーのニーズに対応できる作業スペースが確保できるよう、環境整備に取り組みます。ささえる会(後援会)の積立金を会の趣旨に基づいてメンバーに還元していきます。
 - ・六甲倶楽部の閉鎖により再編する、咲くら工房・ひらめの家の改修
 - ・御影倶楽部の備品入替等
3. 第二次中期計画を策定します。ここ数年大きな課題に直面して、その解決に時間を費やしました。PDCAサイクルを回し、対処療法に陥らない事業展開を目指します。
 - ・人材育成計画、キャリアプランの作成
 - ・小規模事業所の在り方、生活支援への取り組みの検討
 - ・本部施設大規模修繕の実施
 - ・咲くら工房物件の買取、法人単位での活用の検討
4. 情勢を注視して活動します。国の動きや、それに対する他法人や他団体の動きを学び、実践的な交流を図ります。
 - ・全国社会福祉法人経営者協議会への加盟

以上